

パネルディスカッション

日本企業の収益力向上と株式市場

＜パネリスト（五十音順）＞

家 次 恒

（ シスメックス株式会社
代表取締役会長兼社長 ）

熊 切 直 美

（ 大東建託株式会社
代表取締役社長執行役員 ）

高 崎 秀 雄

（ 日東電工株式会社
代表取締役取締役社長 ）

■司会者

大 槻 奈 那

（ 名古屋商科大学 教授
メリルリンチ日本証券株式会社
マネジング・ディレクター（大会開催時） ）

目

1. 各社の経営戦略と現状
2. イノベーションと技術革新への取組み

次

3. 人材の活用と多様性への対応
4. ガバナンスの観点から見た企業価値の向上

1. 各社の経営戦略と現状

大槻 自民党復権からちょうど3年が経過し、今週（10/7）から第3次安倍内閣が発足したが、これまでの過程においては、企業収益は順調に拡大してきたように思える。2015年9月24日には、安倍首相が新たに掲げた「新3本の矢」が発表され、600兆円の名目GDPに向けて更なる成長を目指すとしている。その他にも、子育て支援や安心につながる社会保障などの新しいターゲットが設定された。しかしながら、少子化や財政問題など

の長期的な課題については、なかなか具体的な打開策が見えない状況にある。したがって、このようなスローガンだけでは、動きづらいマーケットになってきているように思う。実際、毎月、メリルリンチが行っているファンドマネジャー調査を見ると、15年の4月で「日本に対して今後1年間程度でオーバーウェイトにしたい」と考えている投資家は22%だったが、15年9月には5%にまで低下してしまっている。これは、総額60兆円程度の投資家に対して行った調査結果である。ご存じのように、ここ1、2カ月の間、海外市場